

まとめ

- ・大津横田遺跡の調査区からは、中世の水田跡が見つかった。
- ・水田跡を覆う土には、周辺から流されてきたと思われる土器や古銭などの遺物がたくさん出土した。測量機械で位置を測定したものだけでも、3,000点以上ある。
- ・これらの出土遺物の年代観は、13世紀～16世紀と幅が広い。上流に拠点的な集落があったのかもしれない。また、近接する大津天神堂遺跡の集落が発展していた時期とも重なる。
- ・調査区の北東側は水田とはならなかったが、この境界に大きな溝などはなかった。
- ・中世の水田区画は、場所により近代・現代まで受け継がれていた。とくに、南端で検出された大畔は、明治期の字（あざ）の境目と重なっている。

Q1. 遺跡？考古学？

A1. 人々の生活の痕跡を遺跡と呼んでいます。ぱっと思いつくものは縄文時代の竪穴住居などでしょうか。このほかにも、古墳などのお墓、田んぼや窯跡などの生産に係わるものも遺跡となりえます。考古学は、遺跡などから出てきたものを研究することにより、当時の人々の暮らしや地域の歴史を明らかにしていく学問です。
※モノを対象に人類の歴史を明らかにするため、恐竜の調査はしません。



Q2. どうして発掘調査をするの？

A2. 道路や建物の工事を行う際、地中に埋まっている遺跡に影響を与えてしまうことは少なからずあります。今回の調査地点では、中央道のスマートインターが建設予定ですので事前に遺跡をくまなく調べ、記録をすることが目的です。発掘調査が完了すると、「発掘調査報告書」にその記録・成果をまとめます。工事完了後も、この本を読めば遺跡の内容が分かります。

ご注意 今日のお話や、本資料に書かれていることは、現段階での成果に基づくものです。今後の調査や検討によって、変更になる場合があります。

山梨県埋蔵文化財センター（山梨県庁 観光文化・スポーツ部）

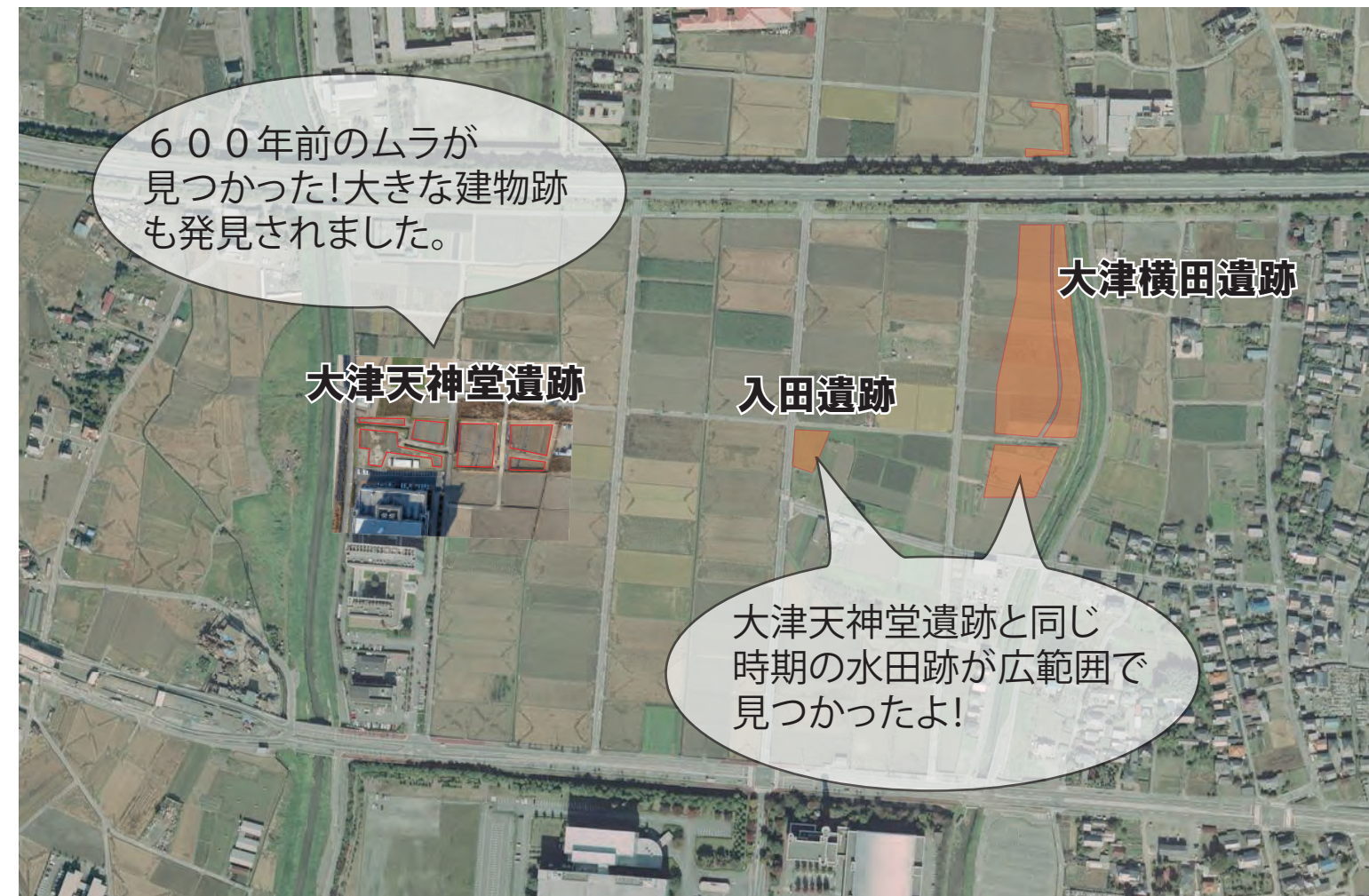
<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>
電話 055-266-3016（平日 8時30分～17時15分）

イベント情報など、HPをチェックしてね！

2025年2月15日（土） 山梨県埋蔵文化財センター

ここまで分かった！甲府市南部地区の歴史 Ver.1 大津横田遺跡第3次調査現地説明会編

甲府市南部地域（大津町・高室町・西下条町など）では、リニア中央新幹線などの工事に先立って行われた試掘調査により、新しく遺跡が見つかっています。令和5年度からは本格的な発掘調査も始まり、特に中世の人々の生活の様子が分かるようになってきました。昔の人々はどのように暮らしていたのでしょうか。



大津天神堂遺跡 漆碗



大津天神堂遺跡 柱根



大津横田遺跡 水田の畔



大津天神堂遺跡 かわらけ



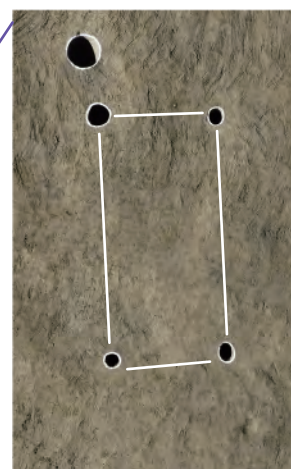
大津天神堂遺跡 杭列断ち割り



大津天神堂遺跡 重複する建物跡

今回の発掘調査で見つかった遺構・遺物

北東側は水田としては利用していなかったようだ。
小屋状の建物跡が見つかった。



古銭は全部で70枚くらい出土した！



渡来銭



かわらけ



輸入青磁

一番南側から、大きな畔が見つかった。その北側の区画はとても細長いが、しっかり畔で区切られている。



どうしてここだけ大きな畔なのだろう？

細い線は水田の畔を表しているよ

0 50m
1/1000

マニア向け解説！

★の田んぼの面積は450㎡

畔の軸線は東へおよそ8度傾くぞ！

明治期の地籍図

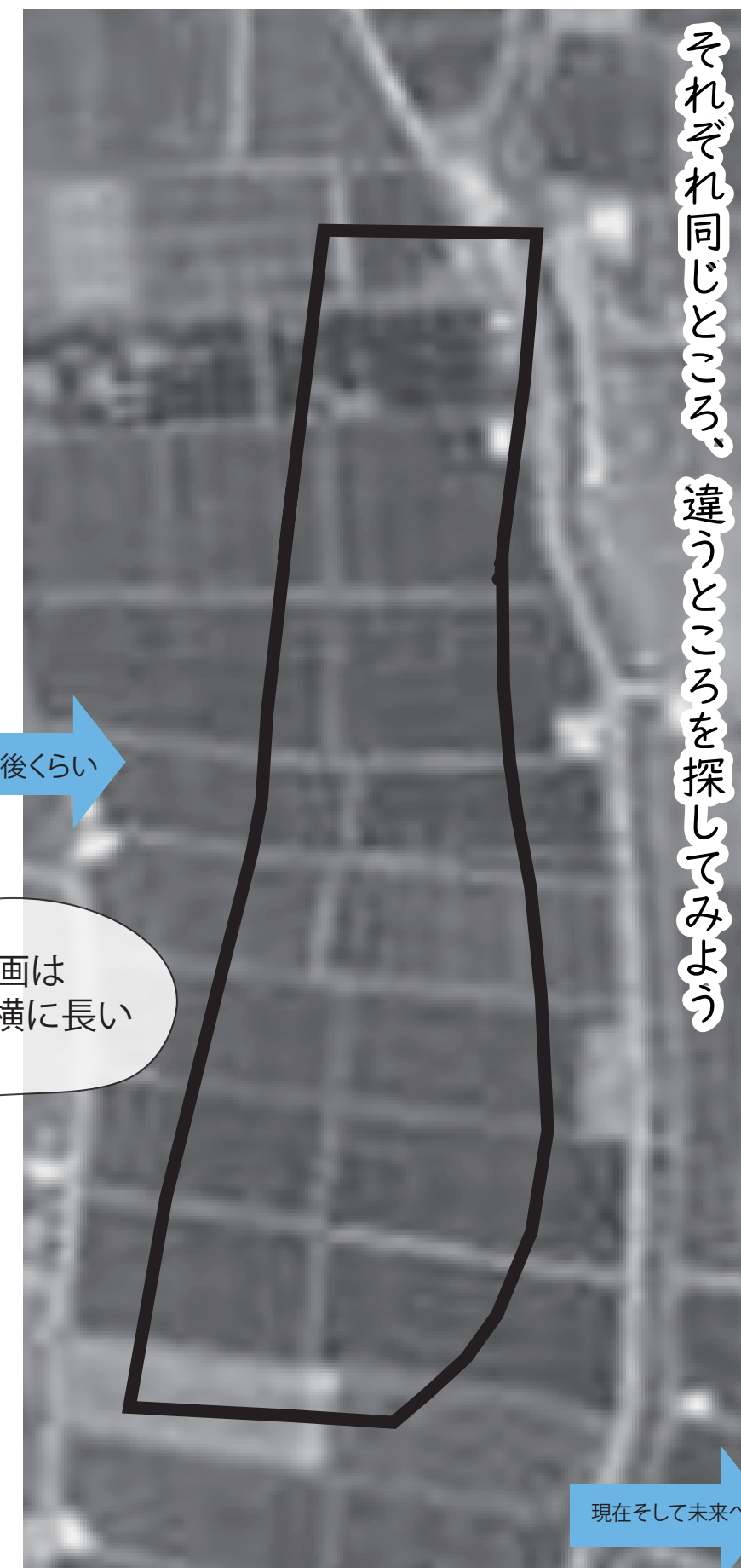


80年後くらい

この区画は
とても横に長い

字界がここにあるんだ！

1960年代の航空写真



それぞれ同じところ、違うところを探してみよう

現在そして未来へ

出土した3cm×3cm以上の土器片は、なんと3000点以上！ 上流の集落から流れてきたのかな？